



TITLE:

21世紀によみがえる魔女たち

AUTHOR(S):

河西, 瑛里子

CITATION:

河西, 瑛里子. 21世紀によみがえる魔女たち. 京都大学アカデミックデイ 2017: 研究者と立ち話 (ポスター/展示) 2017: 21.

ISSUE DATE:

2017-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227843>

RIGHT:

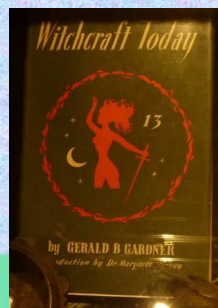
【第二次世界大戦後の北米・西欧社会】

- イギリスにおける魔女術令の廃止(1950年)
→田舎の「昔ながらの知恵」としての魔女術が公に
 - カウンター・カルチャー運動などによる価値観の多様化
→伝統的な形式のキリスト教に縛られず、自分にあった信仰を探し求める人たちが登場
- ★その一つとしての魔女術(witchcraft)★



○伝統的魔女術○

- ・地域共同体の年長者から習う
- ・農村に伝わってきた、おまじない、呪い、お守り、薬草、人生儀式、季節の儀式



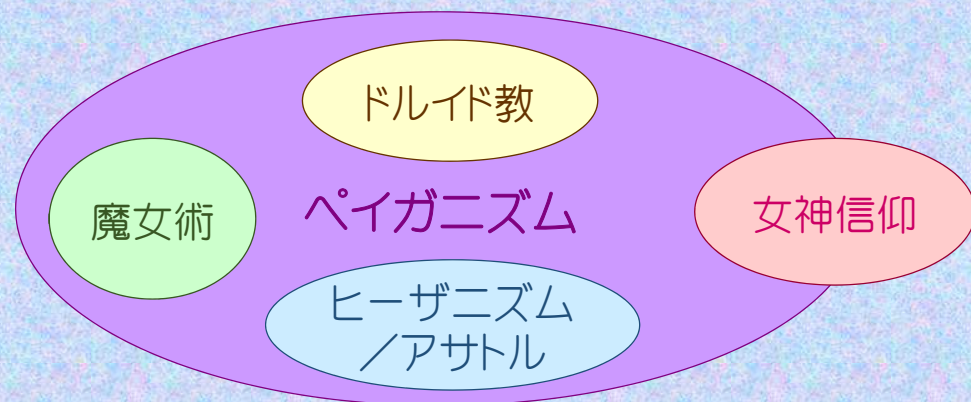
○ウィッカ(Wicca)○

- ・ジェラルド・ガードナー(1884-1964): 伝統的魔女術、儀式魔術、オカルトをあわせて、創出
- ・通常、カヴンに属して、学ぶ
- ・儀式を通した自らの変容を目指す



Museum of Witchcraft and Magic (Boscastle, Cornwall, England)

- ヨーロッパにキリスト教が伝わる前にあった土着の信仰をベースに創られた信仰
- 文字記録が残っていないため、口承伝承、考古学的遺物、各地のネイティブ文化を参考に、個々人が創りだしている



=ドルイド教=

イギリスやアイルランドの先住民、ケルト人の信仰に由来



=ヒーザニズム / アサトル=

北欧の古い信仰(バイキングの信仰、北欧神話)に由来



1970年代、女性の宗教として、フェミニストが魔女術を取り入れて創出

=女神信仰=



その他、ギリシャやエジプトの神話の神々を崇拝したり、ネイティブ・アメリカンの信仰に携わる人もいる



聖典なし、無数のペイガン団体
→信条や実践をあえて統一せず、自分に
合う信条や実践を自ら考えることを推奨

※多くのペイガンの共通項

- ❖ 女神と男神を崇拝する(多神教)
- ❖ 自然の中に神性を見出す
(地水火風のスピリット)
- ❖ 季節の儀式(サバト)、
満月／新月の儀式(エスバト)



他のペイガンとの交流を
通して、学び、考えていく



宗教とは何か、信仰とは何か、考えさせてくれる

- ❑ ペイガニズム(もしくは、魔女術／ドルイド教／ヒーザニ
ズム／女神信仰など)とは何か、なぜ、魅かれるのか
- ❑ 新宗教運動、スピリチュアリティの一つとして
- ❑ 当初は、北米とイギリスが中心
- ❑ 最近の傾向...グローバル化、ローカル化への関心
(オーストラリア、ニュージーランド、中東欧、イスラエル)
- ❑ 専門学術誌:The Pomegranate
- ❑ 研究者グループ:Researching Paganisms (FB group)

🍎現在の研究の目的と展望🍎

ペイガニズム／魔女術と日本文化の絡み合い



神道を取り入れる、イギリスのペイガンたち
(近年では、アニメの影響から関心)



英国神道
グループ



稲荷国際協会



神道を取り入れる、日本の魔女たち
(西洋かぶれではない、
日本独自の魔女術の模索)

- ・ 新しい形での神道リバイバル?
- ・ 宗教のグローカリゼーション
- ・ 信仰へのインターネットの影響

Merry Meet, Merry Part, and Merry Meet Again !!